

5 本時の目標

- 「心」の中には表現しないと分からないことが実感できる。
- 1つの現象にも色々な「心」の動きがあることが視覚を通してとらえることができる。
- 幼い頃の「心」で感じたこと体感したことが人格や人生に大きく影響することが理解できる。
- 自分を分かってもらうためには「心」を表現する手段があることが理解できる。

6 指導過程

	学習内容及び学習活動	学習の支援・指導上の留意点	資料等
導入	1 授業前の確認	○ <u>ベル着2分前や姿勢, 忘れ物の点検をする。</u>	技・家ノート
	2 前時の学習を振り返る。	○ ノートの重点事項をおさえさせる。	
展開	3 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">「心」って何だろう？</div>		四角錐  「狼に育てられた子」の写真  技・家ノート
	4 心のあると思う場所をさわらせる。	○ 心はどこにあるのか表見させる。 ● <u>観察評価</u>	
開	5 黙って生徒を見つめ教師が考えていることを発表する。	○ 人の心は他人には表現しない限り分からないことを実感させる。 ● <u>観察評価 (教師を真剣に見ているか。)</u>	四角錐  「狼に育てられた子」の写真  技・家ノート
	6 四角錐を見せて黒板に特に感じた部分を書かせる。	○ 1つの現象にも色々な「心」の動きがあることを視覚を通してとらえさせる。 ○ 感じたままを素直な気持ちで書かせる。 ● <u>観察評価 (友達の発表に関心を持っているか。)</u>	
開	7 資料を見ながら、教師の説明を聴く。	○ 人は人間に生まれるのではなく、人間に育て(育てられて)行くことに気づかせる。 ● <u>机間指導による観察評価 (教師の話の聴いているか。)</u>	技・家ノート
	8 「心」を表現する3つの方法があることを知る。	○ ノートを通して、情緒・言葉・社会性で「心」を表現していることがわかる。 ○ ノートに印を付けることができる。 ● ノート提出による点検	
終末	9 まとめ	○ 特に怒りや哀しみを感じたときに「心」の表現をすることが自己ならびに他者理解につながることを話す。	

7 本時の評価

段階	評価規準についての達成状況	達成状況に応じた支援
A	○ 「心」の表現方法が理解できた。	○ 怒りや哀しみを感じたときに静かな気持ちで表現してみるようにアドバイスする。  ○ 自分の手をかかると、つまませ、教師は自分の頭を強くたたいて見せ、他人の痛みは感じないことを体感させる。
B	○ 「心」は人によって感じ方が違うことが視覚でとらえられる。	
C	○ 「心」について考えられない。	